

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

静岡県 御殿場市

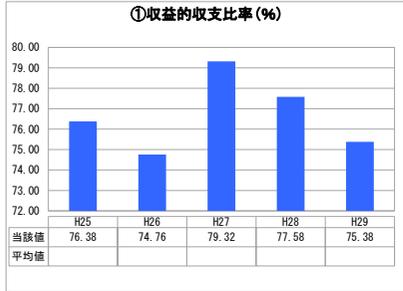
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	1.37	96.78	2.160

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
89,073	194.90	457.02
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
1,208	0.30	4,026.67

**グラフ凡例**

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成29年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



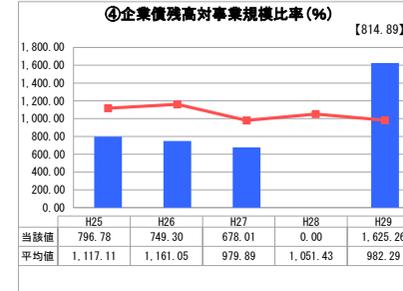
「単年度の収支」



「累積欠損」



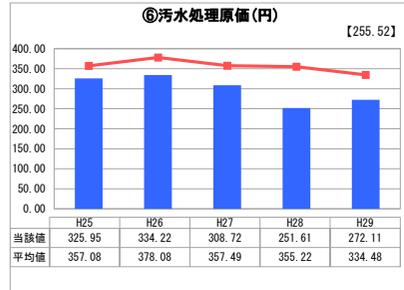
「支払能力」



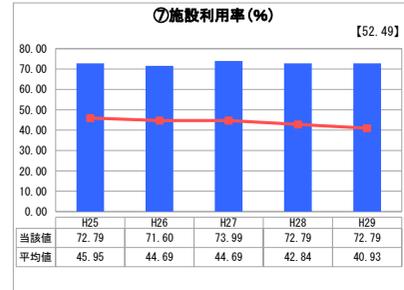
「債務残高」



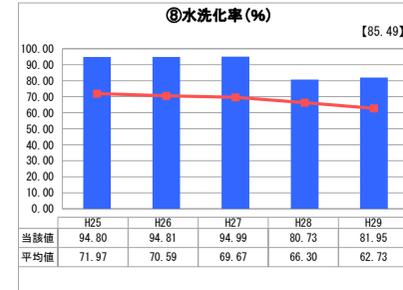
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

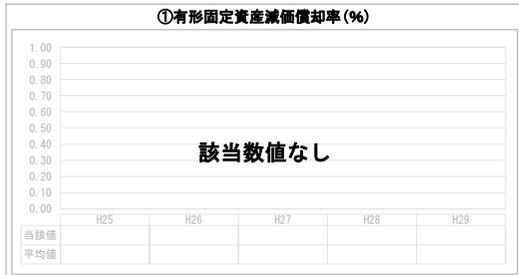


「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

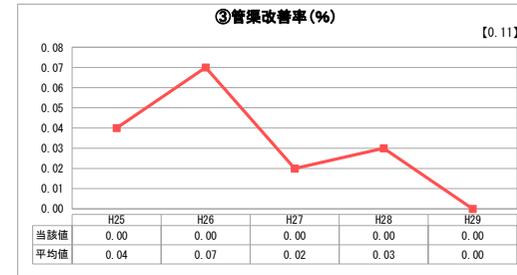
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

## 分析概

### 1. 経営の健全性・効率性について

当事業区域はすでに整備が完了しており、新規接続者の大幅な増加は見込めないため、⑦施設利用率及び⑧水洗化率は現状のように横ばいで推移していくと考えられる。  
平成29年度に関しては、前年度よりも処理水量が減少しており、①収益的収支比率及び⑤経費回収率は低下、⑥汚水処理原価は上昇している。これらを考慮すると、経営状態の改善には使用料単価の見直しが必要となるため、平成31年度に使用料の改定を行うこととなった。  
なお、④企業債残高対事業規模比率は、1,625.26ではなく0.00が正しい。

### 2. 老朽化の状況について

御殿場市農業集落排水事業は、平成12年度より整備を開始し、平成17年度に供用を開始した。このため、管渠施設及び処理場設備が比較的新しく、老朽化は維持管理上の大きな問題とはなっていない。

## 全体総括

現時点で新規の投資は予定されておらず、大規模な修繕・改築についても喫緊の課題とはいえない状況である。このため、当面は維持管理費と使用料収入との乖離を是正することを目標として、経営を進める必要がある。  
一方で長期的な観点からは、修繕・改築等ともなう費用の増加が見込まれることから、公共下水道事業との統合を含めた事業運営の検討が必要になると考えている。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。  
※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。